

転倒災害防止90日作戦

～ **STOP!**転倒災害プロジェクト in 栃木 なくそう転倒災害! ～

栃木労働局及び労働基準監督署は、事故の型のうち最も多く発生している転倒災害の撲滅を目指し「転倒災害防止90日作戦」を緊急実施します。

事業者の皆さまは、以下の取組みを強化していただき、転倒災害の起きない職場環境づくりを図って下さい。

実施期間

平成29年10月3日から12月31日までの90日間



事業者の実施事項（実施要綱より抜粋）

1 経営トップによる決意表明

- 経営トップは、転倒災害防止に向けた決意と基本方針を書面等により表明し、労働者及び関係者全員に周知しましょう。

2 転倒災害の発生状況及び安全対策に係る実態把握

- 経営トップは、自らが率先して各職場を巡回し、転倒災害の発生状況や安全対策の実態を把握の上、必要な助言・指導を行いましょう。

3 安全管理体制の確立

- 事業場ごとに安全管理者または安全推進者を配置しましょう。

4 転倒災害防止に向けた自主的安全活動の推進

- 事業場内の通路や作業床等を重点に「4S（整理、整頓、清掃、清潔）活動」を徹底しましょう。
- 十分な照度の確保、安全な作業靴の着用、作業開始前の「KY（危険・予知）活動」、作業時の「指差し呼称」、ストレッチ体操等を推進しましょう。
- 危険個所にステッカーを貼る等、危険の「見える化」を図りましょう。

5 安全教育等の充実

- 高年齢労働者及び経験の浅い労働者をはじめ、全ての労働者が安全活動を理解し積極的に取り組むよう、安全教育の充実を図りましょう。

主唱 栃木労働局・労働基準監督署

協賛 独立行政法人労働者健康安全機構 栃木産業保健総合支援センター

一般社団法人 栃木県労働基準協会連合会

建設業労働災害防止協会 栃木県支部

陸上貨物運送事業労働災害防止協会 栃木県支部

林業・木材製造業労働災害防止協会 栃木県支部

転倒災害の発生状況

転倒災害は、全産業で多発しており、事故の型のうちで最も多く、労働災害全体の2割以上を占めます。

高年齢労働者ほど転倒災害のリスクが増加。

転倒により被災した労働者のうち50歳以上は3分の2を占め、労働災害全体における割合（45%）よりも高くなっています。

転倒により被災した労働者のうち女性は55%を占め、労働災害全体における割合（30%）よりも高くなっています。

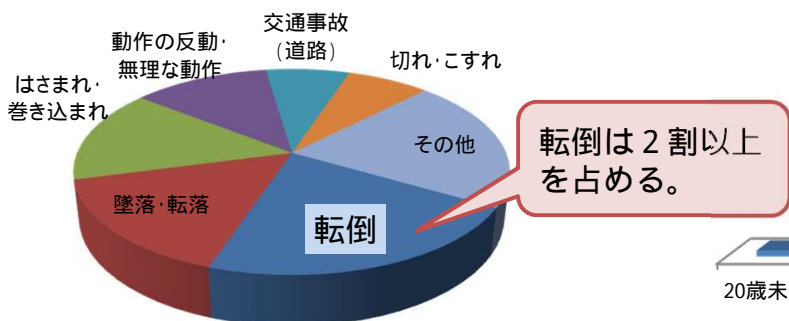
転倒災害のうち経験年数1年以内は25%となっています。

転倒災害のうち休業が1か月以上に渡るものは6割を超えており、労働災害全体に占める割合（55%）よりも高くなっています。

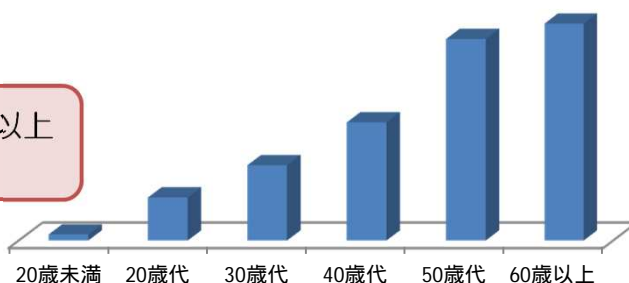
転倒災害は、通路、作業床、階段等を中心に発生しており、これらだけで、転倒災害の7割を占めます。

通路等に起因する転倒災害は、例年10月から11月にかけて急増し、1月・2月にピークを迎える傾向にあります。

事故の型別 労働災害発生状況

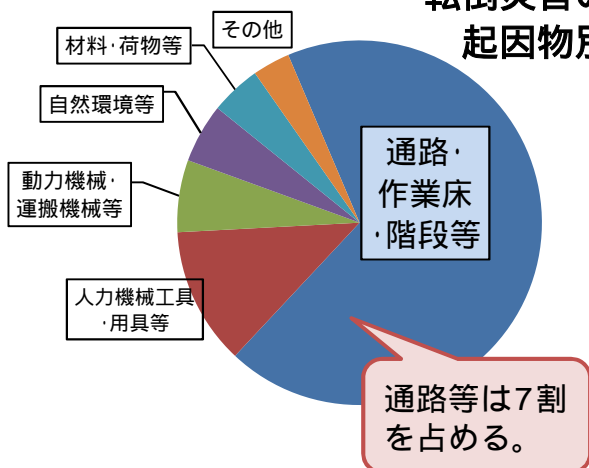


年齢別 転倒災害発生状況

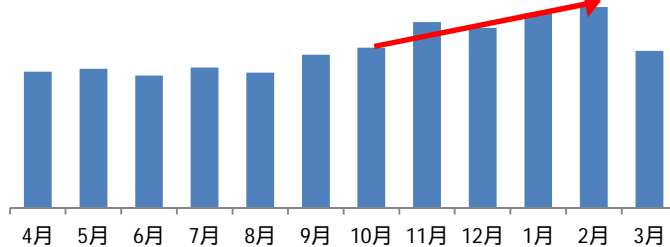


50歳以上は3分の2を占める。

転倒災害の起因物別内訳






月別 転倒災害発生状況 (24年1月～28年12月)



上記データは、平成24年1月から平成29年6月まで（月別のみ平成28年12月まで）の労働者死傷病報告に基づき集計したものです。

転倒災害防止対策のポイント

転倒災害は、主に「滑り」「つまづき」「踏み外し」により発生しています。




滑り	つまづき	踏み外し
		
<p><主な原因></p> <ul style="list-style-type: none"> 床が滑りやすい素材である。 床に水や油が飛散している。 ビニールや紙など、滑りやすい物が床に落ちている。 	<p><主な原因></p> <ul style="list-style-type: none"> 床の凹凸や段差がある。 床に台車や荷物、ケース、商品、ゴミなどが放置されている。 	<p><主な原因></p> <p>大きな荷物を抱えるなど、足元が見えない状態で作業している。</p>

「滑り」及び「つまづき」は、主に床面が**水や油**で濡れていたり、**段差や荷物などの障害物**が原因で発生していますので、**4S（整理、整頓、清掃、清潔）**を徹底し、転倒の原因となるものをなくすることが重要です。

また、**大きい物や重い物**を持つと、足元や前方が荷物で見えなくなる、両手がふさがり手すりがかめなくなる、持った物の重みで身体のバランスが取りづらくなるなど、転倒するリスクが高まり、腰痛の原因にもなりますので、台車を使う、ひとりでは持たない、何回かに分けて運ぶなどの工夫が必要です。



その他にも、**十分な照度**を確保すること、足のサイズや作業場所及び作業内容に合った**滑りにくい作業靴**を着用することなどの対策が必要です。

4S (整理・整頓・清掃・清潔)	転倒しにくい作業方法 「あせらない急ぐときほど 落ち着いて」	その他の対策
<ul style="list-style-type: none"> 歩行場所に物を放置しない 床面の汚れ（水、油、粉など）を取り除く 床面の凹凸、段差などの解消 	<ul style="list-style-type: none"> 時間に余裕を持って行動 滑りやすい場所では小さな歩幅で歩行 足元が見えにくい状態で作業しない バランスの悪い荷物の持ち方はしない。 	<ul style="list-style-type: none"> 作業に適した靴の着用 十分な照度の確保 職場の転倒危険マップの作成 転倒危険場所にステッカーなどで注意喚起 

転倒災害防止対策を効果的に進めるために・・・

危険の「見える化」

経営トップは、率先して行動し、労働者の安全意識の啓発を図りましょう。

事業場ごとに、旗振り役として、安全管理者または安全推進者を配置しましょう。

作業開始前のKY（危険・予知）活動、作業時の指差し呼称、ストレッチ体操などを推進しましょう。

危険の「見える化」及び安全教育の充実を図りましょう。



転倒災害防止のためのチェック項目

- 経営トップは、転倒災害防止に係る決意と基本方針を書面等で表明し、周知していますか。また、自ら率先して各職場を巡視していますか。
- 各職場における転倒災害の発生状況を把握・分析し、全社的な安全対策を実施していますか。
- 事業場ごとに安全管理者または安全推進者を配置していますか。
- 安全管理者等が活動しやすいよう、職務に必要な権限を与え、職務の遂行状況を確認していますか。また、能力向上にも配慮していますか。
- 4S（整理、整頓、清掃、清潔）活動」、「KY（危険・予知）活動」、「指差し呼称」、「ヒヤリ・ハット事例収集」等の安全活動を実施していますか。
- 通路、階段、出口に物を放置していませんか。
- 通路や床に、水たまりや氷、油、粉類などを放置していませんか。
- 安全に移動できるように十分な明るさ（照度）が確保されていますか。
- 作業靴は、作業現場に合った防滑性を備え、かつ足のサイズに合ったものを選んでいませんか。
- 職場巡視やKY活動等で把握した危険なポイントについて、注意を促す表示をする、危険マップを作成する等により周知していますか。
- ストレッチ体操や転倒予防のための運動を取り入れていますか。
- 職制、従事業務の内容、経験年数等に応じた転倒を予防するための教育を行っていますか。
- ポケットに手を入れたまま歩くこと等の不安全行動を禁止していますか。

